

日中韓露の領土問題 —尖閣諸島、竹島、北方領土—

アジアダイナミズム班

多部田裕也

市村江梨果

木下周

目次

1. 問題意識
2. 尖閣諸島、竹島、北方領土の問題点
3. まとめ
4. 計画

1. 問題意識

- (A) なぜこのテーマにしたか
- (B) 研究方法

(A)なぜこのテーマにしたか

- 最近の話題である領土問題に興味が出た
- 日本のメディアから発信される一般論だけで考えていいの？
- 尖閣諸島、竹島、北方領土はどここの国の領土なの？⇒領土問題の知識がない！

(B) 研究方法

◆ 文献調査

● 先行研究の分析

● 文献一覧表

- 文献をリベラル、中道、保守に分類、かつ国際法、歴史に分類して一覧表にする(問題点の項に記載)

◆ フィールドワーク

- 8、9月に韓国、台湾などへ留学、実地調査をする

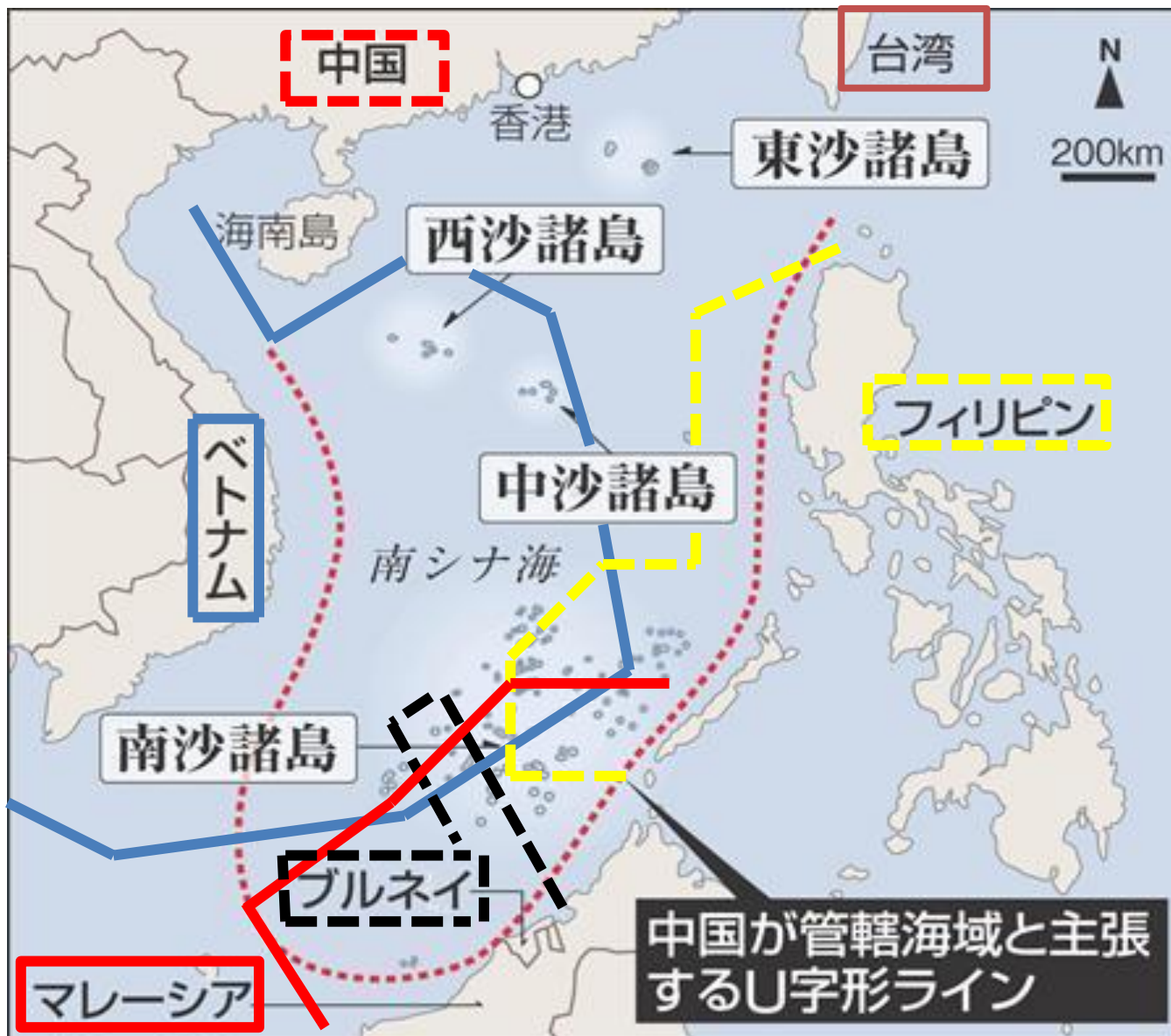
◆ 世界の領土問題(解決・未解決)の考察

目的: 視野を広げより深く考えるため

◆世界の領土問題〔**解決**、**未解決**〕

- ① 南シナ海の領有権問題〔**未解決**〕
- ② 北方限界線（韓国、北朝鮮）〔**未解決**〕
- ③ 中国・インド国境紛争問題〔**未解決**〕
- ④ 中露国境紛争〔**解決**〕
- ⑤ ロッコール島問題〔**解決**〕

①南シナ海の領有権問題(未解決)



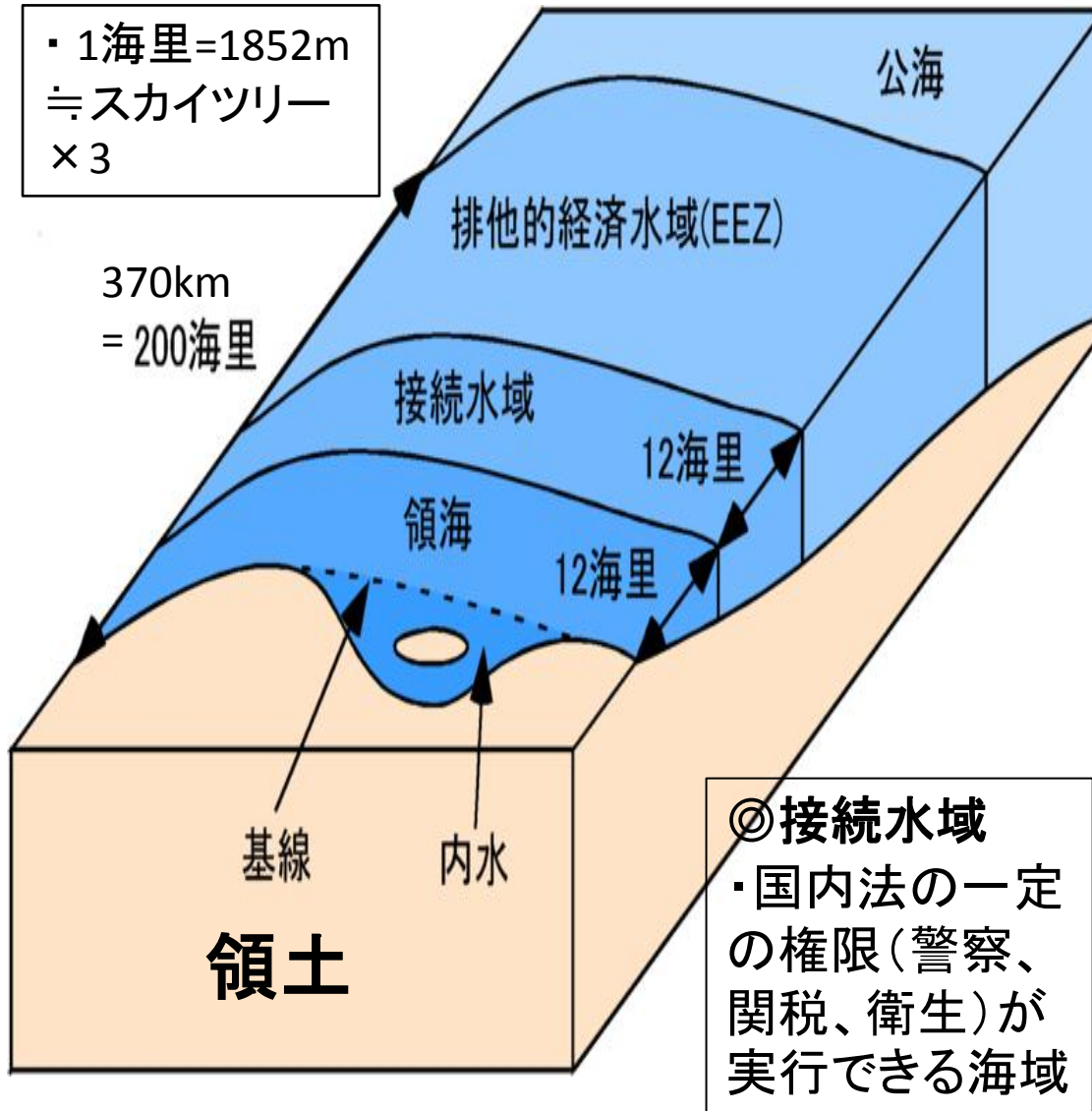
◎争っている国
・中国、台湾、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ブルネイ

◎多数の島が散在しておりEEZは策定困難

・色線 = 排他的経済水域 (EEZ)

◎島々には地下資源(石油、天然ガス)豊富

補足：排他的經濟水域〔EEZ〕



・ EEZ = Exclusive Economic Zone の略

◎EEZ(排他的經濟水域)

- ・ 経済的な主権がおよぶ水域
- ・ 天然資源(漁業資源、鉱物資源等)の探査、開発、保存、管理ができる

◎領海

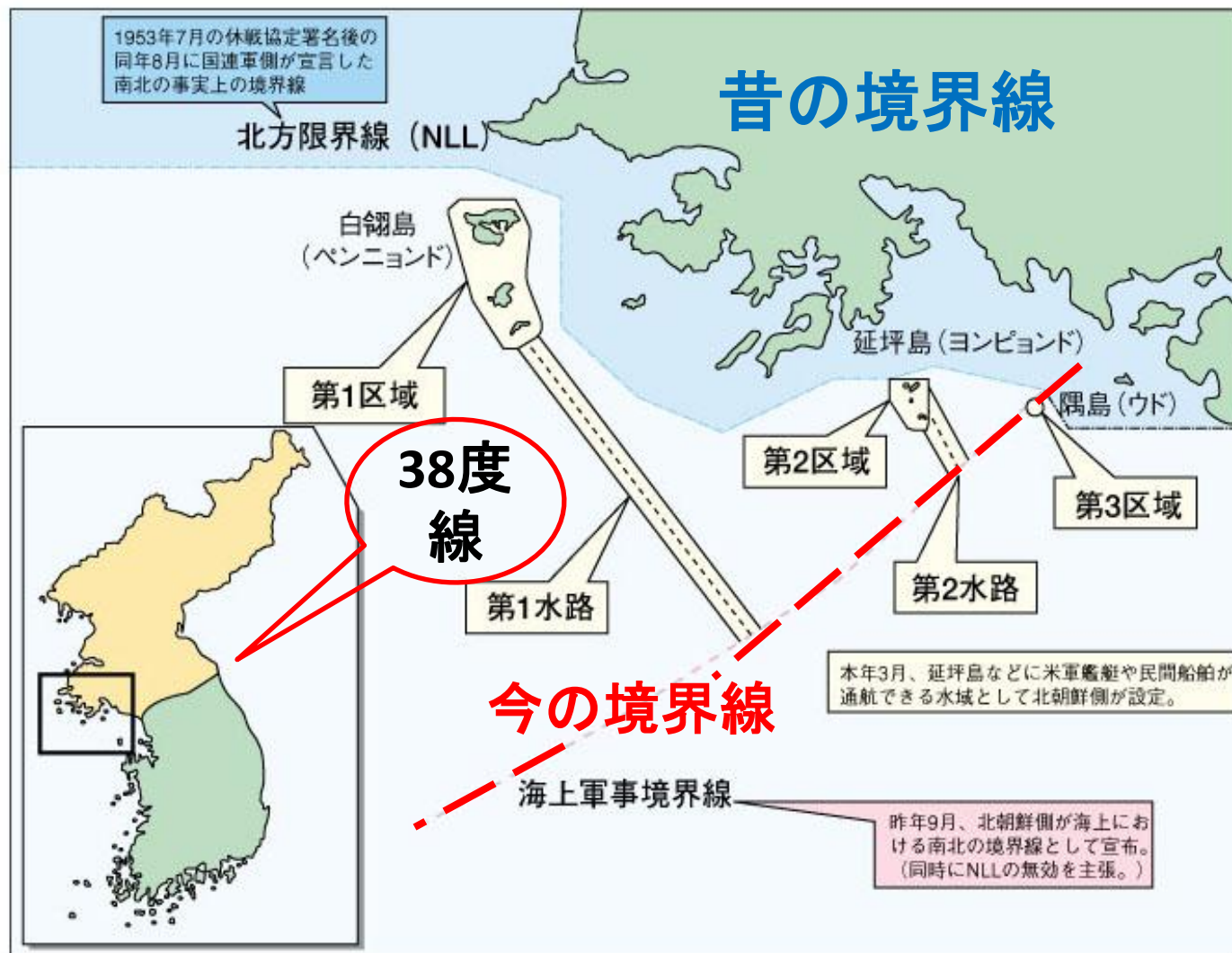
- ・ 領土、領空と同様に日本の主権が及ぶ海域
- ・ 瀬戸内海(内水)を除きその国の平和、秩序、安全を害さない範囲で外国船が通航できる

◎公海

- ・ どの国の領海、排他的經濟水域等にも含まれない海域
- ・ 全ての船舶に対し航行の自由などが認められている

②北方限界線（NLL）〔未解決〕

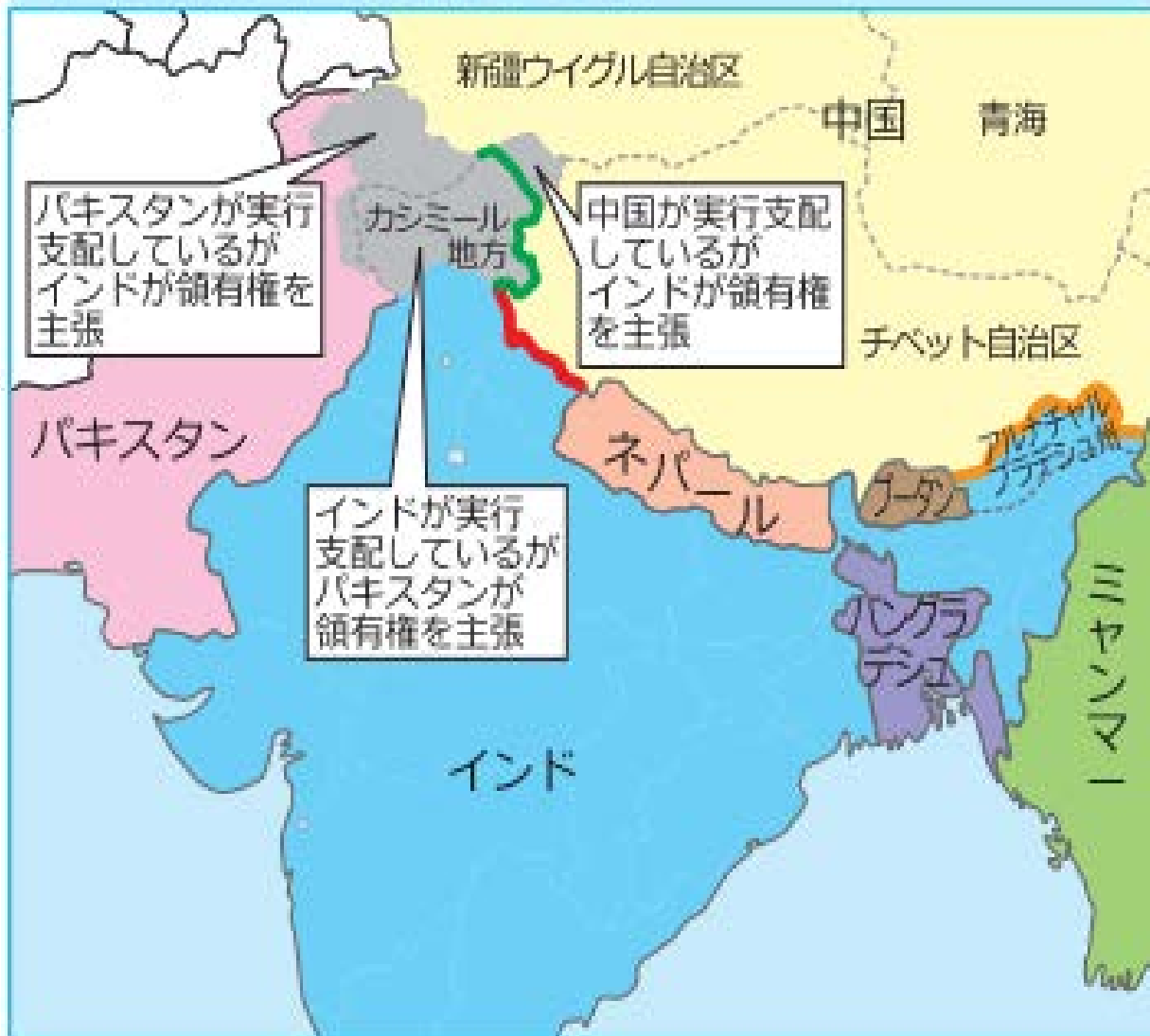
NLL（北方限界線）と北朝鮮の主張する海上軍事境界線



- ◎NLLとは
 - ・北方限界線（NLL）＝38度線が海上へと伸びたもの
 - ・38度線：朝鮮半島を南と北へ分ける線
- ◎今の境界線へ07年に変更。

③中国・インド国境紛争問題〔未解決〕

図. 中国インド国境紛争地域



◎きっかけ

- ・1962年 中印武力衝突
- ・インド: 英国から譲渡された領土の境界線を主張

- ・中国: ヒマラヤ山系の南側に沿う習慣上の境界線を主張

- ・東西冷戦終結⇒改善へ

- ・2010年暮れ 温家宝首が相訪印⇒具体的進展なし

◎問題の先送り？

- ・中国もインドも外交、経済、文化、教育で投資や事業協力の合意文書が調印

④中露国境紛争〔解決〕



ウスリー川

◎きっかけ

・1969年3月 警備兵(ソ連)と
中国人民解放軍が武力衝突

・7月アムール川 8月ウイグルでも武力衝突

・コスイギン首相(ソ連)は周恩来首相(中国)と会談して問題の先送り

◎解決

・2004年10月 プーチン大統領と胡錦濤 国家主席の両首脳による政治決着で中露国境協定を結び

・2008年に画定し解決

◎内容

・土地を半分こにする

⑤ ロッコール島問題〔解決〕



◎領有権を主張する4つの国（イギリス、デンマーク、アイルランド、アイスランド）

◎イギリスがただの岩と認めて公海上に存在する岩と定義し、問題は解決。

2. 尖閣諸島,竹島, 北方領土の問題点

尖閣諸島問題

尖閣班

多部田 裕也

吉田 綾香

尖閣諸島問題とは



◎どこの国？

・1971年から**日本**と**中国**と**台湾**が領有権を主張している問題

◎きっかけ

・1969年、国連アジア極東委員会 (ECAFE) が石油の埋蔵があると発表

尖閣諸島問題の歴史的経緯

- 1895/1/14: 日本政府「無主の地」として領有
 - 1895/4/17: 下関条約を署名 → 台湾 → 日本へ
 - 1943: カイロ宣言
 - 1945: ポツダム宣言
 - 1951: サンフランシスコ平和条約 → 沖縄 → 米国
 - 1969: ECAFEが石油の埋蔵を発表(!)
 - 1971: 日中台が領有権主張(!)
 - 1972/5月: 沖縄返還 → 日本 ← 沖縄(米)
 - 2010: 中国漁船が海上保安庁の船に衝突
 - 2012: 石原都知事が尖閣を買取(← 今)
- 2つは別々に行われた!
- 台湾 → 中国へ

問題点

- 尖閣諸島を東京都が買い取るとメディアで騒がれている
- 尖閣諸島（領土問題）の**知識**や**意義**を知らない人が多数なのでは？
- 尖閣諸島をもとに日中台関係の悪化が**武力衝突**の可能性をはらんではいないか？

文献一覧表1

	リベラル	中道	保守
国際法	「日本の国境問題 尖閣・竹島・北方領土」 孫崎享 筑摩書房 2011/05/11	「尖閣諸島・琉球・中国—日中国際関係史」 浦野起央 三和書籍 2005/05	
混合 その他	「尖閣・竹島・北方領土—激震する日本周辺の海」 中名生正昭 南雲堂 2011/02	「日本人がいけない日本の領土」 山本皓一 小学館 2007/0531	「いまこそ日本人が知っておくべき「領土問題」の真実 国益を守る「国家の楯」 水間政憲 PHP研究所 2010/12/01
		「日本の領土問題」 保阪正康、東郷和彦 角川書店 2012/02/10	「早分かり・日本の領土問題」 田久保忠衛 PHP研究所 2007/03/20
		「ニッポン人なら読んでおきたい竹島・尖閣諸島の本」 別冊宝島編集部 宝島社 2005/10	
		『日本の領土』 芹田健太郎 中央公論新社 (2010/12/18)	
		『日本の国境 (新潮新書)』 山田吉彦 新潮社 (2005/03)	
		『ニッポンの国境 (光文社新書)』 西牟田靖 光文社 (2011/7/15)	
	『誰も国境を知らない—揺れ動いた「日本のかたち」をたどる旅』 情報センター出版局 (2008/9/25)		

文献調査表2

歴史	『「尖閣」劣等-釣魚諸島の史的解明』 井上清 第三書房 1996	『サンフランシスコ平和条約の盲点—アジア太平洋地域の冷戦と「戦後未解決の諸問題」』 原貴美恵 溪水社 (2005/06)	「尖閣諸島灯台物語」 殿岡昭朗 高木書房 2010
	「尖閣列島・釣魚諸島をどう見るか」 村田忠き 日本橋報社 2004	「日中国交正常化」 服部龍二 中央公論新社 2011/05/25	
	「尖閣諸島—冊封琉球記録を読む」 原田萬雄 容樹書林 2006	「歴史でたどる領土問題の真実」 保阪正康 朝日新聞出版 2011/08/10	
		「日本近代史」 坂野潤治 筑摩書房 2012/03/05 「昭和史1926-1945」 「昭和史1945-1989」 半藤一利 平凡社 2009/06/11	

竹島問題

竹島班

市村江梨果

高木篤 江成麻衣子

竹島問題とは



●竹島は、日本と韓国の間である日本海に位置する小さな島。日本では**竹島**、韓国では**独島**と呼ばれている。

●この島を巡って日本と韓国が対立している。

竹島とは



●竹島は**大きな岩**のような島。
手前の女島と奥の男島の**二つの島**で成り立っている。

●面積は約0.2km²。
日比谷公園ほどの大きさ。

竹島問題の歴史的経緯

- 17世紀半ば(江戸時代初期) 日本が領有権を確立
- 1905年 竹島を島根県に編入
- 1910年 日韓併合
- 1946年 連合軍総司令部により日本の行政上の権力が停止
- 1951年 サンフランシスコ平和条約
- 1952年 韓国側が李承晩ラインを設定
- 1954年 韓国が実効支配を行い始める
- 1965年 日韓基本条約調印によって李承晩ラインは廃止
しかし、実効支配は現在まで続いている

サンフランシスコ平和条約(1951年)

この問題が大きくなったきっかけは、**サンフランシスコ平和条約**。

戦争中、日本は日韓併合によって朝鮮半島を占領していた。

そして戦後、サンフランシスコ平和条約によって朝鮮に領土を返還することになる。

しかし、返還しなければならない領土の中に**竹島は含まれていなかった**。

朝鮮側の海域の主張

朝鮮側は竹島を**朝鮮の領土だと主張**し、
朝鮮が主権を握る海域の中に竹島を取り込んだ。
(赤い線の内側が朝鮮の主張する海域)



それ以降、両国共に主張を繰り返しているが、**解決はしていない**。
現在では韓国が**実効的支配**をしている。

問題点

- 竹島(独島)はどちらの国の領土なのか
- 韓国がこんなにメディアなどを使って積極的に外国に向けて「竹島は韓国のものだ」とアピールしているのは何故なのか
- 逆に、日本は何故このようなアピールをしないのか

文献一覧

	リベラル	中道派	保守派
国際 (法)	「日本の国境問題 尖閣・竹島・北方領土」 孫崎 享 筑摩書房 2011/5/11		
混合 または その他	「尖閣、竹島、北方四島—激動する日本周辺の海」 中名生 正昭 南雲堂 2011/02	「韓国人は日本人をどう思っているのか」 朴 相鉉 新人物往来社 2010/10/13	「韓国人がタブーにする韓国経済の真実」 室谷 克実、三橋 貴明 PHP研究所 2011/6/18
	「日本の領土問題 北方四島、竹島、 尖閣諸島」保坂正康 東郷和彦 角川書店 2012/2/10	「日本人が行けない「日本領土」北方領土・ 竹島・尖閣諸島・南鳥島・沖ノ鳥島上陸記」 山本 皓一 小学館 (2007/5/31)	
	「竹島・尖閣問題」解決の秘策 歳田 啓三 郁朋社 2007/04	「ニッポン人なら読んでおきたい竹島 尖閣諸島の本」 別冊宝島編集部 宝島社 2005/10	
	「独島(ドクト)/竹島 韓国の論理」 金 学俊、Hosaka Yuji 論創社 増補版 (2007/11)	「独島/竹島 韓国の論理」 金 学俊、ホサカユウジ 論創社 2004/05	
	「独島問題100問100答」韓国側から見た 竹島問題 愼鏞廈 (シン・ヨンハ) 弘益齋 新幹社 2007	「領土ナショナリズムの誕生—「独島/竹島問題」 の政治学」 玄 大松 ミネルヴァ書房 2006/12	
歴史	「竹島は日韓どちらのものか」 下篠正男 文藝春秋 2004/4/21	「史的検証 竹島・独島」 内藤 正中 金 柄烈 岩波書店 2007/4/26	「いまこそ日本人が知っておくべき 「領土問題の真実」 国益を守る「国家の盾」」 水間 政徳 PHP研究所 2010/12/1
	「歴史でたどる領土問題の真実 中韓露に どこまで言えるのか」 保坂 正康 朝日新書 2011/08/28	「日本海と竹島 日韓領土問題」 大西 俊輝 東洋出版 1998/12/31	「竹島密約」 ロー・ダニエル 草思社 2008/10
	「続 日本海と竹島 日韓領土問題の根本資料 「隠州視聴合紀」を読む 大西 俊輝 東洋出版 2003/9/30	「竹島=独島問題入門—日本外務省『竹島』批判」 内藤 正中 新幹社 2008/10	「史的解明 独島(トクト)(竹島)」 楨 ヨンハ、韓 誠 インター出版 1997/06
	「独島(ドクト)研究 韓日間論争の分析 を通じた韓国領有権の再確認」 金学俊、保坂祐二、李喜羅、小西直子 論創社 (2012/02)	「竹島=独島論争—歴史資料から考える」 内藤正中 新幹社 2007/03	
	「独島(ドクト)研究—韓日間論争の分析 を通じた韓国領有権の再確認」 金学俊、保坂祐二、李喜羅、小西直子 論創社 2012/02		

北方領土問題

北方領土班

木下周 山口洋佑

長間裕一 蛭田毅

北方領土問題とは

地理

北海道
根室半島沖合い

現状

ロシアが実効支配
⇒日本が返還要求



エトロフトウ 択捉島 (イトウルップ島)



地名

択捉島／イトウルップ島
Итуруп

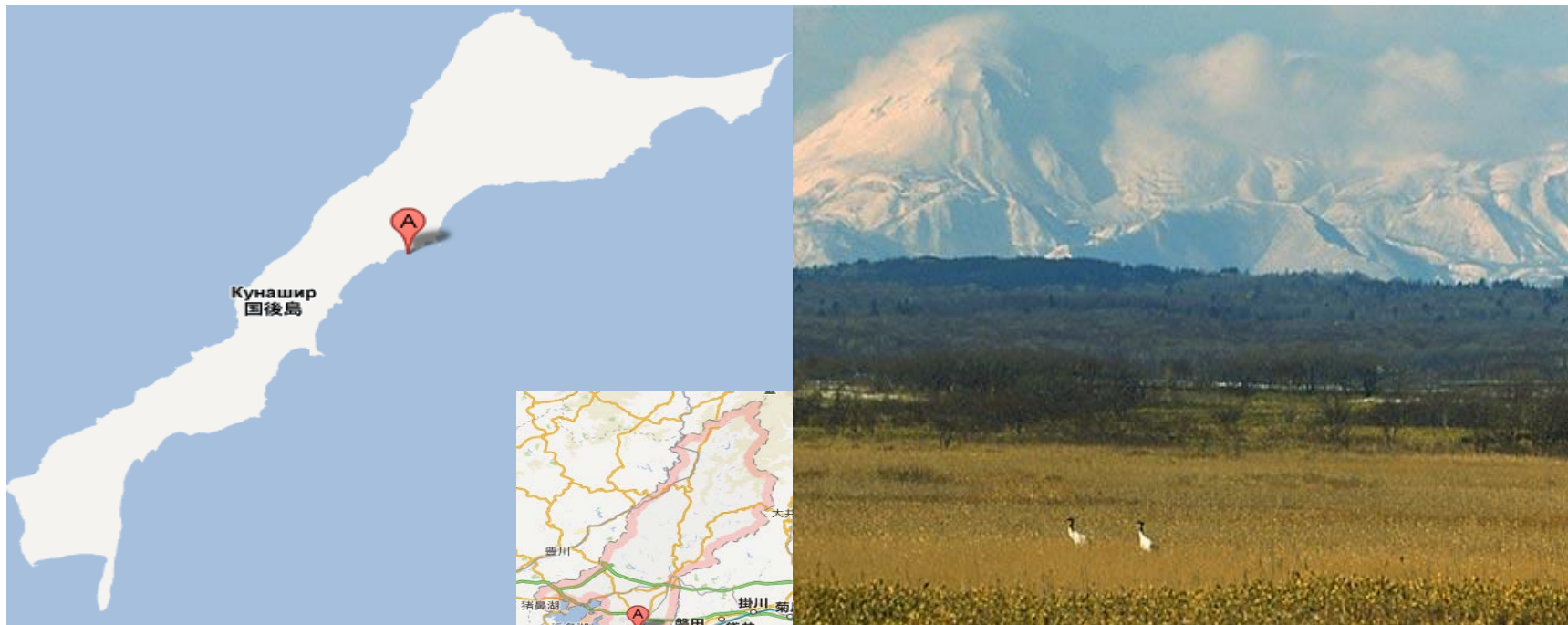
名前の由来

アイヌ語の
「エトウ・オロ・プ(岬の・ある・所)」から。

島の大きさ

3184.04km² 例 鳥取県

クナシリトウ 国後島 (クナシリ島)



地名

国後島／クナシリ島 Кунашир

名前の由来

アイヌ語の「クネ・シリ(黒い・島→黒い島)」または「キナ・シリ／キナ・シル(草の・島→草の島)」からであるが、どちらが本当の由来かははっきりしていない。

島の大きさ

1498.83km² 例 沖縄本島

シコタントウ 色丹島 (シコタン島)



地名

色丹島／シコタン島
Остров Шикотан

名前の由来

アイヌ語の
「シ・コタン(大きな村)」から。

島の大きさ

253.33km² 例 徳之島

ハボマイグントウ
歯舞郡島 (ハボマイ諸島)



地名	歯舞郡島／ハボマイ諸島 Острова Хабомай
名前の由来	アイヌ語の「ハ・アプ・オマ・イ(覆っている氷が退く・小島・そこにある・所⇒流氷が退くと小島がそこにある所)」から。
島の大きさ	99.94km ² 例 小笠原諸島

北方領土問題の歴史的経緯

1855年2月7日(安政元年)	日露通好条約署名
1875年5月7日(明治8年)	樺太・千島交換条約署名
1945年8月14日(昭和20年)	日本、ポツダム宣言を受諾
1951年9月8日(昭和26年)	サンフランシスコ平和条約署名
1956年10月19日(昭和31年)	日ソ共同宣言署名
1991年4月18日(平成3年)	日ソ共同声明
1991年12月25日(平成3年)	ソ連崩壊
1993年10月13日(平成5年)	東京宣言
1997年11月2日(平成9年)	クラスノヤルスク合意
1998年4月19日(平成10年)	川奈合意
2001年3月25日(平成13年)	イルクーツク声明
2003年1月10日(平成15年)	日露行動計画
2010年1月1日(平成22年)	当時メドヴェージェフ大統領が国後島を初訪問
2012年5月7日(平成24年)	プーチン首相が大統領に復帰

問題点

- この先どのように解決していくか
- 過去に解決できる機会があったにも関わらず何故70年近く解決できなかったのか
- 日本とロシアは北方領土をどのように認識しているのか

文献一覧表

	リベラル	中道派	保守派
国際(法)	『国際法からみた北方領土』(岩波ブックレット)高野 雄一 (1986年) 『北方領土 匿名交渉』講談社プラスアルファ文庫 鈴木宗男、砂糖裕 (2007年)	『日ロ平和条約への道—北方領土問題を考える』大瀧一 (2011年) 『サンフランシスコ平和条約の盲点』溪水社 原貴美恵(2006年) 『還らざる島—北方領土の真実』北海みちお (2007年)	『判例国際法』田畑茂次郎 武本正幸 (2000年) 『図解 国際法』 有斐閣 江草 忠敬 (1998年) 『国際法キーワード』有斐閣 江草 忠敬 (1997年)
混合 または その他	「北方領土問題—歴史と未来」朝日選書 和田 春樹 (1999年) 「日本の国境問題 尖閣・竹島・北方領土」ちくま新書 孫崎享(2011年) 『北方領土問題 4でも0でも、2でもなく』中公新書 岩下明裕 (2005年) 『日本人が行けない「日本領土」北方領土・竹島・尖閣諸島・南鳥島・沖ノ鳥島上陸記』山本皓一 (2011年) 『日本の領土問題 北方四島、竹島、尖閣諸島』角川oneテーマ21 保坂正康、東郷和彦(2012年)	「これなら分かる日本の領土紛争(国際法と現代政治から学ぶ)大月書店 松竹信幸(2011) 「日本の領土」中央公論新社 芹田健太郎(2002) 『日本の国境問題 尖閣・竹島・北方領土』ちくま新書 孫崎 享 (2011) 『新版 日露国境交渉史 北方領土奪還への道』角川選書木村 汎(2005年) 『論点整理 北方領土問題』ユーラシアブックレット 石郷岡 建、ユーラシア研究所ブックレット編集委員会 (2012)	「北方領土はないという現実」世紀社 V・N・ベレジン/著 江川昌/訳 (ロシアからの視点) 『北方領土問題—歴史と未来』朝日選書和田春樹 (1999年)
	北方「領土の真実 - 300年の関市と将来の提言」南雲堂 中名生正昭(1996年) 「不信から信頼へ」サイマル出版会 Александр Николаевич Панов (1992) 『北方領土交渉秘録—失われた五度の機会— 新潮文庫 東郷和彦(2011年)	「密漁の海で 新訂増補版—正史に残らない北方領土」本田良一(2006年) 「北方領土をめぐる憂憤の詳像」小池明(2008年) 『「北方領土」上陸記』文春文庫 上坂 冬子 (2005年) 『日露間領土問題の歴史に関する共同作成資料』日本国外務省/編・ロシア連邦外務省/編 日本国外務省(1992年)	「今こそ日本が知っておくべき「領土問題の真実」国益を守る「国家の盾」」PHP研究所 水間政憲 (2010年) 「日本固有の領土北方領土—古地図、写真…稀少資料が示す史実の証明」北方領土問題調査会 (2010年) 「北方領土は泣いている—国を売る平成の「国賊」を糾す」産経新聞出版 斎藤 勉 (著), 内藤 泰朗 (2007)
歴史			

3. 現時点のまとめ

3. 現時点のまとめ

各領土問題について、国際法・歴史・宗教など、文献は多岐にわたる視点から研究されている。

私たちは、ひとつの視点にとらわれずに、さまざまな観点から領土問題を包括的に考えていきたい。

4. 今後の計画

4. 今後の計画

